26年6月分　　製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

１.調査実施期間

平成26年 5月20日～ 26年6月10日

２.調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は8社である。

３.判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)＝{(「増加」の評価を行った回答の割合)×2＋(「やや増加」の評価を行った回答の割合)－(「減少」の評価を行った回答の割合)×2－(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

４.調査結果の概要

(1) 荷動き動向　Weight.Ｄ.Ｉ.

品目		26/6月	7月	8月
入荷動向	国産材製材品	21.4	12.5	28.6
	外材製材品	7.1	12.5	7.1
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 43.8	△ 50.0	△ 50.0
	外材製材品	△ 31.3	△ 43.8	△ 50.0
	その他	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
在庫動向	国産材製材品	43.8	37.5	37.5
	外材製材品	25.0	25.0	18.8
	その他	25.0	25.0	25.0

国産材及び外材製材品の入荷は増加傾向で推移、その他は横ばいで推移。

国産材、外材製材品及びその他の販売は減少傾向で推移。

国産材、外材及びその他の製材品の在庫はいずれも増加傾向で推移。

(2) 価格動向　Weight.Ｄ.Ｉ.

品目		26/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	柱角 KD12×3	△ 18.8	△ 18.8	△ 12.5
	通し柱 12×6	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	桁角	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	母屋角	△ 18.8	△ 18.8	△ 12.5
	タルキ	△ 14.3	△ 12.5	△ 12.5
	間柱	△ 6.3	0.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	6.3	6.3	6.3
	平割	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 56.3	△ 50.0	△ 31.3
	柱角 KD12×3	△ 56.3	△ 50.0	△ 31.3
	土台角 10.5×4	△ 56.3	△ 50.0	△ 31.3
	土台角 12×4	△ 56.3	△ 50.0	△ 31.3
	通し柱 12×6	△ 28.6	△ 28.6	△ 14.3
ｶﾗﾏﾂ土台角10.5×4		－	－	－
米マツ平角		△ 35.7	△ 21.4	△ 21.4
米マツ割物		△ 33.3	△ 25.0	△ 25.0
北洋エゾマツタルキ		△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
北洋アカマツタルキ		△ 35.7	△ 28.6	△ 28.6

スギ製材品価格は、加工板が横ばい推移、ヌキがやや強保合である以外は総じて弱保合で推移。

ヒノキ製材品価格は総じて弱含みないし弱保合で推移。

米マツ製材品（平角及び割物）は弱保合で推移。

北洋エゾマツタルキ及び北洋アカマツタルキは弱含みないし弱保合で推移。

モニターからのコメント

・ヒノキ柱、土台は入荷増、今後、素材生産減により見通しは横ばい。国産材構造材は全般に販売不振、今後は徐々に回復を期待。国産材製材品の在庫は6月は増加も、夏場は横ばいか減少。スギ製材品価格は全般に横ばい傾向。ヒノキ柱及び土台は客先在庫未だ多く、相場も良くて横ばい、ただし、出材減から底打ち傾向も見られる。・スギ順調入荷しだした、カラマツ丸太少ない、アカマツ、WW,ベイツガは順調入荷。販売はヒノキ動きなし、アカマツ、WW,ベイツガは動き少ない。梅雨入りし在庫増加、材木屋さん仕事少なく在庫増加。スギ柱角65,000円/m3,スギG桁角40,000円/m3、スギG母屋角42,000円/m3、タルキG45,000円/m3、間柱KD66,000円/m3、加工板G束2,800円、KD束3,800円、ヌキ秋田50,000円/m3、岩手45,000円/m3. 平割プレーナー48,000円/m3、ラフ40,000円/m3、ヒノキ前面安柱角、土台角90,000円/m3、米マツ平角68,000円/m3、割物AD65,000円/m3、北洋アカマツタルキS66,000円/m3. P56,000円/m3。・スギ原木高により入荷が不安定、中小工務店の動きは悪く販売は苦戦の状況、入荷が増えないので在庫も豊富でない。スギは原木高により製品も値上げになっている。ヒノキはスギ製品より苦戦、主力の土台が荷動き良くない。・ヒノキ製品は荷動き不振のため入荷は横ばい傾向、スギ一般材は多少動きあり。ヒノキ構造材中心に販売減少、スギ羽柄材販売は横ばい、外材の販売は増加傾向。在庫、元落は全てにおいて増加傾向。スギは柱角（KD)は販売価格弱含み、桁、母屋角（GRN)は下落傾向、羽柄材は増加傾向進んでいるが価格は弱含みから保合。ヒノキは、構造材は弱含みで推移、通し柱は横ばい、ベイマツ製品は輸入材が増加傾向、価格は弱含み。アカマツタルキ（40×30）は輸入材供給過多のため下落。・国産材の入荷は増加気味、プレカット工場からの注文が減少（国産材）、リフォーム業者からの注文も減少（WW/アカマツ）、販売量減少で在庫増加。・全体的に仕入れ量を減らしている模様で売れにくい状況、市場に製品が大量にある模様。スギ柱、桁の価格も下落の方向になってきた模様、間柱及びヌキなど一部製品で品薄のため価格上昇も、全体的には下がってきている。ヒノキ製材品は夏一杯まで価格は下がって来る模様。米マツも下落基調、北洋材タルキは横ばい。